

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)										
ET45H011	自閉症心理学特論(Special Seminar in Psychology for the Children with Autism)					特別支援教育										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	1	大学院教育学研究科			氏名 衛藤 裕司 E-mail eto@oita-u.ac.jp 内線 7537										
授業の概要	自閉症スペクトラム障害(「知的障害」を伴う場合を含める)に関して、症状別、発達段階別、認知特徴別にそれぞれの特徴について、主としてこれまでの心理学的研究の成果から知識を深める。学校・家庭・地域のそれぞれにおける自閉症の行動の理解が行えることがこの講義のゴールである。															
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	事例から自閉症の症状に関する特徴を示すことができる。															
目標2	発達段階別に自閉症の特徴を示すことができる。															
目標3	各場面における自閉症の認知的特長を示すことができる。															
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1	自閉症スペクトラム障害とDSM・ICD															
2	自閉症スペクトラム障害の社会的障害の特徴															
3	自閉症スペクトラム障害のコミュニケーション障害の特徴															
4	自閉症スペクトラム障害の創造力の障害の特徴															
5	自閉症スペクトラム障害に伴いやすい症状の特徴															
6	自閉症スペクトラム障害と心理化															
7	自閉症スペクトラム障害と実行機能1(プランニング)															
8	自閉症スペクトラム障害と実行機能(ワーキング・メモリ)															
9	自閉症スペクトラム障害とモダリティ															
10	自閉症スペクトラム障害と中枢統合															
11	自閉症スペクトラム障害と模倣															
12	自閉症スペクトラム障害と創造性															
13	自閉症スペクトラム障害の認知的特徴1(刺激の過剰選択性)															
14	自閉症の認知的特徴2(イデオ・サヴァン)															
15	自閉症の社会的適応、現在の自閉症論															
ラ ー ク ニ テ ン イ グ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	ディスカッション(話し合い)、事例研究(ケース・メソッド)、相互教授(学び合い)			工 夫 そ の 他 の	知識集の活用、メディアからの情報収集										
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	事前配布課題(15時間)														
	事後学修	配布資料による復習(15時間)														
教科書	プリントを配布する。															
参考書	ウタ・フリス(著)、富田真紀(翻訳)、清水康夫(翻訳)、鈴木 玲子(翻訳)(2009):新訂 自閉症の謎を解き明かす、東京書籍、ISBN-10: 4487799198、ISBN-13: 978-4487799190															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	課題(自閉症の症状)	30%														
	課題(自閉症の発達)	30%														
	レポート(自閉症の認知)	40%														
注意事項	特になし。															
備考	「障害児心理学特論」を履修していることが望ましい。															
リンク	URL															